

＜白金標準先物、大勢感（週足）は底固めから再度高値へ＞



(出所：オアシス)

57年ぶりの東京オリンピックの開催に合わせて先週は4連休となり、東京市場が休日中にNY白金は21日に1075.3ドルで終わり、週末の23日は1061.4ドルで終わるなど、連休中の上昇を吐き出している。そのため今週の休場明けから3800円の水準を試す値動き見せる可能性は高い。しかし22日のWPICの報告では、米国で投資需要の伸びが見られプラチナコインやETFの需要が伸びており、スイスから米国へ輸入される量が250%増の216000オンス(6.6トン)を示されている。

そのため一時的に中国政府の個人制裁の発表や米国の債務上限問題の信用リスクの高まりを受けて、28日のFOMCまで3800円以下の下値模索を示した後は下げ止まりから再度3900円へ向けて上昇を示すと予想される。

(2021年7月25日記載)

＜テクニカル＞

白金標準先物の週足で見た動きでは、相対力指数(RSI)やMACDにおいて下値固めに入った状態を示している。特に2020年3月の安値1843円から始まったエリオット波動論で示す5波動では、オシレーター系の相対力指数やMACDでも4波の終了を示唆しており、MACDにクロスが発生すると強気基調が始まったサインと捉えるのが良いと思える。

NYMEX 指定倉庫在庫(トロイオンス)：585640(前週比-70250)

世界プラチナETF残高(トン)：74.78(前週比+0.19)